

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2021

8

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 7月句会	19
川柳吟行会「ぼ」	26
十和田たてがみ川柳会6月句会報	30
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	18
Infomation	33～

カンテラ

むせし

この原稿は、もうすぐ東京オリンピックが始まるという7月14日に書いている。

新型コロナウイルス感染のことがあって1年延期されたオリンピックだが、開会直前の今も依然として東京都のコロナウイルス感染者は多く、無観客がどうのこうのと盛り上がりがありあまり感じられない。

高齢者の多くが2回のワクチン接種を済ませたようだが、果たしてこの先どうなるか。
コロナよなくなれ！である。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

寝返りを何度うっても夜のまま
夏草ぶぶき
雨の日は燃料棒を磨いてる
笹田隆志
髭剃って舌を畳んでデイサービス
岩根彰子
傷口に指を差し込む情もある
旅男
逢いたいひと無に行きたい明日も無い
きさぎ彼句吾
話しかけ過ぎたカシストウが生らぬ
宮井いずみ
汗だくでカボチャの蔓を追っている
熊谷冬鼓
反省は月に向かってこっそりと
辻井洋子
ふりむくなふりむいたら負けですよ
鳴海賢治

穴の中一緒に暮らす人募集

まきこ

ワクチンの済めばどこまで夏帽子

吉見恵子

抽斗に「べし」詰めすぎて開かない

四ツ屋いずみ

コロッケの中へ逃げ込むしかないぞ

石橋芳山

石橋芳山さん、7月の豪雨のとき貴殿のブログをチェックさせて頂き、被害がないことを知りホッとしました。「コロッケ」は雨に打たれると崩れてしまうので、この句はあの雨のことじゃないですよね。「コロッケの中」へ逃げ込んだら誰かに食べられてしまいませんか？あれ？今「芳山さんの入ったコロッケなんて食べる人いるの？」と言ったの誰ですか？（汗汗）

B群

勝手口開けたか太陽磨いたか
土田雅子
人つてさ見えない橋くぐってる
田中 薫
やわらかな最寄りの影で待ってます
米山明日歌
朝までの口論墓地は冷んやりと
須藤しんのすけ

C群

ばらしゅつと、とびばて、こおあ、あたたかし
折戸 洋
梅雨ですねああカツ丼の紅生姜
奈良一艘
病窓の空空空空空空
柳本恵子

葉閑女さん、「シンバル」って円盤型の打楽器ですよ。お寺で法要なんかしてお経があげられているときジャジャーンって「シンバル」みたいな楽器が鳴らされて驚くことがあります。「シンバル」って近くで聞くととんでもなく刺激的で大きい音がするんですね。まさに「さあ、勝負だ！」です。で、「お祭り」が始まるのか…。ところで閑女さん、シンバルの音でコロナウイルスを追いかうって、できませんか。

足首がホルムス海峡にはさまった

小野五郎

いてえなーまたア行から刺さりだす

芝岡かんもん

動詞で生まれて動詞で亡びゆく

田久保亜蘭

シンバルが勝負に出たよお祭りだ

葉 閑女

不気味の谷が捨ててある非常口
板塀の隙間がいじめられている

三浦蒼鬼
守田啓子

折戸洋さん、尻取りがお好きなようですね。どうして「ぼらしゅうと」から始めたのかな？どこかへ飛び降りたかったのかもね…。で、次も「とびばこ」で飛(跳)んで、そこから一転して「ここあ」。これも、ずいぶん飛びました(笑)で、普通に「あたたかし」。なるほど。

奈良一艘さん、「梅雨ですね」と「ああカツ丼」の間に半文字分の空きがありますね。何か特別な意図があるのですか？ま、それはいいとして、「梅雨」と「カツ丼の紅生姜」の関係って何とも言えないおもしろさがあります。どうすればこんな感覚の句が書けるのかな…。

柳本恵子さん、この句の「空」って、「病窓の」だから「そら」と読むのでしょうか。それとも「くう」でしょうか。あるいは、読者のお好きなようにすることででしょうか。「そらくウクウそらそらくウ」なんて読む人がいるかもしれませんね。ま、それもいいか。にしても、6回の「空」

には驚きました。

三浦蒼鬼さんはガチガチの定型派だと思っていましたので、この句の作者が分かった時には驚きました。(名前を伏せて選んでいるのです)内容が内容だからわざと読みにくい7音・5音・5音にしたのかな？それから、いきなりの「不気味の谷」には驚きました。その後がまた私のような一般人の予想を遙かに超えた「捨ててある非常口」です。こんな「非常口」、非常の場合は使えませんか(笑)あ、今の世がそうだったことでしたか…。

守田啓子さん、「板塀の隙間」を見つけましたか…。そんなことをする人はこの世にほとんどいません。いたとしても九九・九九パーセントの方は「あ、隙間がいじめられている」なんて思いません(笑)ワオ！です。川柳にはこんな驚きが必要不可欠です。ところで、「板塀の隙間」って比喩だと思うのですが、もしかしたら啓子さん、自分のこと？

おかしきょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅7月月間賞

ケトルが鳴りやまず

木村美映

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

週1の収録ついに一千回
ひたすらに頷いてきたセンス
青春をぎつくばらんに暴露して
力こぶでしたリスナーの反応
この先へ乾杯をする14度

先月号のお気に入り
忙しくないと言いつつ涙が出てくるの
城後朱美
考える間もなく何かに夢中にならないと・経験済みです。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

口角のあたりで影が黄昏る
この木なんの木感情線が纏れてる
不気味の谷が捨ててある非常口
桜でんぶを残り時間に振り掛ける
無色透明になれる土曜日の深夜

先月号のお気に入り
気を付けをして牛乳を飲んでる
小野五郎
そうです、そして右手を腰に当てながら飲むのが正しい
姿勢です。

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

詫びきれぬ自己嫌悪にはバラの棘
杖は友三本足の散歩道
ほめ言葉アドレナリンがうまれでる
終刊に椿の落ちる音をきく
樹海から抜けでる術を知りました

先月号のお気に入り
姉はまだ満月をこころがしている
守田啓子
私は姉と二人きりの姉妹でこの句を詠んでシーンときま
ました

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

そんなもんでしようすくつと花菖蒲
切られてもゼツタイを信じてる葦
ひまわりのへこんだ夜を見ましたか
板塀の隙間がいじめられている
あきらめる前捨てる前の泣き加減

先月号のお気に入り
肩の荷をおろしてからの長い雨季
葉閑女
ふつう。そういうものですか・

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

ロボットの訛りしとと止まぬ雨
オフレコの本音こぼれだす白夜
無くし物ウスバアゲハと言いつつ
話しかけ過ぎたかシントウが生らぬ
粒粒やねん大阪のこのあたり

先月号のお気に入り
焼きたての笑いあつてるパンの耳
ひとり静
ためてガッテンを見てから、パンの耳を切り落としてトーストして
います。中の柔らかいとこよりパンの耳の方が美味しく食べて幸せです。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

次々と変異ウイルス増殖中
ゴリ押しのおリンピック ツケが怖い
通り抜けできない母の秘密基地
父の背も母の背中も遠くなり
青空に吊されてみるケセラセラ

先月号のお気に入り
曲がりなりにも長男の穴掘っている
三浦蒼鬼
私は長女の穴を掘ってました。そろそろゆつくりと埋め
ていきます。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

蝉わんわん泣きたいほどの恋をする
拝啓と書いて雨だれ数えてる
梅仕事気づかれぬよう入れる愛
時々天女にもどり風を抱く
病窓の空空空空空空

先月号のお気に入り
女子会にはるか彼方へ行ったとき
上村夢香
女子会できる日を待ち望んでいます。

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

見渡せば花ともみじとブルータス
否定するわけなどないわ青が好き
シンバルが勝負に出たよお祭りだ
五線譜に収まりきれぬ卵焼き
牽牛花パットブーンを聴きながら

先月号のお気に入り
早一年神宮の森つば九郎
上村夢香
最後に神宮球場へ行ったのは何年前だったかしら。山田
も村上もいなくて、宮本慎也が現役だった。

吉田吹喜

【よしだふぶき・青森県弘前市】

じゃんけんに勝つて始めるエトセトラ
物置のモノは即刻全部ゴミ
押し入れに眠ったままの表彰状
結局ゴミなんて言うなよ お月さん
わたくしの祭りが終わるシュワシュワと

先月号の
お気に入り

女子会をはるか彼方へ行ったきり 上村夢香
ほんとにねえ、いつ戻ってくるんでしょねえ……

吉見恵子

【よしみけいこ・青森県青森市】

一日は短ししゃぼん玉飛ばす
気がつけば百花繚乱すぎて夏
今年こそくるくる日傘買うつもり
図書館でうるおつてゆく水中花
ワクチンの済めばどこまで夏帽子

先月号の
お気に入り

四ツ屋いずみ

【よつやいずみ・北海道札幌市】

抽斗に「べし」詰めすぎて開かない
目が回るまで茅の輪くぐりを続けたい
ひだり耳に届く旋律雨上がる
真正面からのざわざわ受け止める
ただ迷い込んだだけなのに 熊

先月号の
お気に入り

日本語が読めなくなった日本人 S in
います！「ここではBQ禁止」の看板で堂々とBQして
るグループ。読めないのか読んでも意味がわからないのか…

米山明日歌

【よねやますか・静岡県長泉町】

はじまりの匂いの同じ人みつけ
やわらかな最寄りの影で待つてます
さよならは用意してある曲がり角
この水がすむまで夕陽沈めてる
正解の上澄みだけを飲んでみる

先月号の
お気に入り

權のない舟で言葉を紡いでる 渡邊こあき
私の舟にも權はありません。風まかせです。

渡邊こあき

【わたなべこあき・青森県青森市】

晒しても器用になれぬ小玉ねぎ
皮付きのままでつきあう新しうが
粗熱をとってあなたに向かい合う
夏野菜表舞台に立っている
辿る根の先のファミリーヒストリー

先月号の
お気に入り

もう少し黄色い声で行くつもり 辻井洋子
ときどき電話で黄色い声を聞かせてください。

安藤なみ

【あんだうなみ・愛知県瀬戸市】

生温い雨にそうめん流しきる
煮詰めると始まる話ということで
田植え機の蛇行ハツカーの昼休み
またしても外反母趾の世話になる
果物用ナイフの鞘が鳴くのです

先月号の
お気に入り

花よりもワインが似合う部屋にする 葉閑女
賛成！

石橋芳山

【いしばしほうざん・島根県松江市】

マヤ文明ちよつと遠くて番外地
土曜日を出発点にしてくねる
梅雨ならば秋になるまで局留めで
デイスポーターへ投げ込め紅い無頼漢
コロッケの中へ逃げ込むしかないぞ

先月号の
お気に入り

無愛想な風になりたい偏頭痛 まみどり
・ハイ・ハイ、貴女には無理でしょ

岩根彰子

【いわねあきこ・京都府京都市】

オンキヤリソワカペタンと座る敬老パス
髭剃って舌を畳んでデイスーパービス
ジョークだろうか十葉の進軍
スプーンから杖刑百回角砂糖
後家はんにならはった隣のハイビスカス

先月号の
お気に入り

言うことは言ったはんべんトコロテン 石橋芳山
はんべんトコロテンでは、まだクズグズ…口から出た事
は戻せないからその位が事はいいかも。

上村夢香

【うえむらゆめか・山口県岩国市】

半世紀元氣な筆致恩師から
巢籠りに飽きてアクセル吹かすだけ
応援のチーム負けてもまたグラス
命大事声高々も裏返る
突然のチャット化粧は間に合わず

先月号の
お気に入り

一目惚れ電気の通る音がした
わたしもビビッときたことが・・・
芝岡かんえもん

小野五郎

【おのごろう・青森県青森市】

こめかみに貼る薄切り新生姜
脳関門スルーパスした夏みかん
足首がホルムズ海峡にはさまった
ピラミッドの天辺に湧き立つ観世音
鳩尾からしたたり落ちるハッシャバイ

先月号の
お気に入り

折戸洋

【おりとひろし・神奈川県川崎市】

機関車の擬人化されて笑ひをり
ぱらしゅうと、とびぼこ、ここあ、あたたかし
腸の煮えくりかへるジングルベアー
童貞は儂とて同じ卒業す
爪を研ぐあの娘の干支はシャム猫さ

先月号の
お気に入り

きさらぎ彼句吾

【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

逢いたいひと無に行きたい明日も無い
泣いて嫌われ泣かねば忘れられる雨
幸せの圏外にいて水中花
淋しさに甘えワタシを甘やかす
折り合いのつかない鶴を折り返す

先月号の
お気に入り

津浪になるか酒になるかと迷っている 野沢省悟
酔わされるより、いつそ攫われたくなる独り

熊谷冬鼓

【くまがいとこう・青森県青森市】

錆も黴も後ろめたさも陽に当てる
お日様と塩に美味しくしてもらおう
塵になる前に空欄埋めておく
朝顔のカーテン余白がやわらかい
汗だけでカボチャの蔓を追っている

先月号の
お気に入り

言うことは言ったはんべんトコロテン 石橋芳山
後は野となれ山となれ！言った方はスッキリしたけど。

斎藤泰子

【さいとうたいこ・秋田県大館市】

夢だもの覚めるまぼろしだもの消える
目印の火も消えここからが本気
曖味はいつか逃げ出すその為の
貫いてしあわせだとは限らない
才能をもらえなかった訳がある

先月号の
お気に入り

目を開ける前に心は閉じなくちゃ きさらぎ彼句吾
すっかりすると目から心がこぼれ落ちますもんね。気を
つけます。

笹田隆志

【ささだたかし・青森県青森市】

潔白を証言させるワタボウシ
ぼろぼろに破れたままで蚊帳の外
雨のち晴れ勝者の椅子は濡れている
パンデミックに左旋回する右脳
雨の日は燃料棒を磨いている

先月号の
お気に入り

芝岡かんえもん

【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

いてえなーまたア行から刺さりだす
ジョギングだんだん地球になつてゆく
野心あり筋張っているふくらはぎ
古希ちかしまちがい探しの旅に出る
停車場でじっと待っているの自由

先月号の
お気に入り

さよならの少し手前で句う桃 米山明日歌
未練ですかね。まっいいかです。でも…少し手前で句わ
れたら

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

有り余る時間を食べて黄昏れる
退職後のプラン一つが重すぎる
二ヶ月で手抜きになった家事食事
プロ野球負けて調子が狂い出す
デイサービス母を見送り出迎える

先月号の
お気に入り

体重を下げる 免疫力上げる 鳴海賢治
体重を下げると私は免疫力も下がります。なかなか難しい

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

二次元に広げるパノラマの花火
病棟の裏に灰皿重ねをり
朝までの口論墓地は冷んやりと
ウユニ塩湖の空へ行つてきました
放置自転車光る撤去告知書

先月号の
お気に入り

閉経はとくに過ぎたフライパン ひとは
ホルモン呪縛からの解放：素晴らしき人生はまだまだ続
く！

旅男【たびお・青森県五所川原市】

盃の男の指がピンと立つ
火が灯る女の指が刺すホルモン
温泉で焼ける指輪でいいんです
傷口に指を差し込む情もある
指切りげんまん落とすのは小指から

先月号の
お気に入り

やさしいとわかるあなたもやさしいよ ひとり静
忘れてしまうやさしい方程式。ちょっと世の中が好きに
なる。

田中薫【たなかかおる・青森県弘前市】

母さんの影法師を叱つてばかり
なーらんだ本当は不揃いの 蟻
人つてさ見えない橋くぐつてる
縮まった身体を空に映してみよ
それぞれの脱毛劇がはじまるの

先月号の
お気に入り

太陽の刺繍マリコの海 叫べ 須藤しんのすけ
読んでみたいと思っていました。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

ニンゲンの心の中に穴がある
ポリウムはそのままのままだいようジョンレノン
森羅万象光と影の中で生き
ピーター・パンひょうたん島に立つ墓標
ハツハツハミラクル人間かも知れず

先月号の
お気に入り

校則は膝上からの叛逆者 田久保亜蘭
スカートは長すぎても短すぎても指導の対象。現代は膝
小僧の上からが謀叛なんですね。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

動詞で生まれて動詞で亡びゆく
重傷化した手違いのジョコビッチ
愛するがゆえに隣りのトトロかな
ハルカスをひとつ跳びしてから睨る
介錯はひと太刀でお願い申す

先月号の
お気に入り

風呂のできる樁になりました 渡邊こあき
きつと雪槽じやろつ。一言も語ることもなく外はしとし
と雪景気。貴様やね。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

根性が暇をとつたのどの辺り
気付かないそれは罪だと出し昆布
悪知恵が産まれる前に芳香剤
反省は月に向かつてこつそりと
夢がないスギナのせいと言っておく

先月号の
お気に入り

お手紙が美味しすぎるとヤギになる 夏草ふぶき
ヤギになったことあります。フッフッ

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

今日は車庫取り壊しひまわり揺れて
綻びは見えるところだけ縫っておく
解体の家の真上の蒼い月
勝手口開けたか太陽磨いたか
空っぽの家に一陣青嵐

先月号の
お気に入り

危機感の無い茶渋付き茶碗の茶 斎藤泰子
早口言葉してみました！

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

寝返りを何度うっても夜のままだ
嘘つきの染色体が増えていく
大柄な空と重なって心中
セピア色の写真の中で昼寝する
何度でも洗えばいいき凍った手

先月号の
お気に入り
ローズマリー香らせご縁なき不貞 吉田州花
ご縁なき不貞って、いろいろ想像してしまっわ。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

紫陽花と泣きたい人は栖山へ
この混沌のアルファ、オメガ、コロナ
ゼンマイが切れたとしても人畜無害
父の日の父は「あゝ・・・」とペコリ
梅雨ですねああカツ井の紅生姜

先月号の
お気に入り
沈黙の春セガールは何処に居る 安藤なみ
セガールは2人、ムスメは1人、マーゴは7人ですが、
何か？

ひとは【ひとは・青森県黒石市】

七色の翼があるの本当よ
所有者は誰だったのか招き猫
腰痛でオイル交換急かされる
乾ききるまでは逢わない三角コーン
マスクして付箋だらけの今日を生き

先月号の
お気に入り
うぶぶぶぶつと混ぜちゃいけないもの混ぜる きさらぎ彼句吾
そつそう、つい笑っちゃっよね。混ぜちゃいけないもの
にはね。

まき（まき）【まき・青森県青森市】

告げ口はそこまで笑い出すカエル
コロナ渦のつぺらぼうのまま暮らす
穴の中一緒に暮らす人募集
ケンケンパツ蜜の味は好きですか
荷を下ろすやつと私の貌になる

先月号の
お気に入り
もう少し黄色い声で行くつもり 辻井洋子
素敵です。黄色い声合唱隊結成しませんか。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

もうダメと開き直った蓮の花
春夏秋冬青い灯が揺れている
ほつれ毛は家に帰って考える
付度はポケットの外にありました
ふりむくなふりむいたら負けですよ

先月号の
お気に入り
うぶぶぶぶつと混ぜちゃいけないもの混ぜる きさらぎ彼句吾
その冒険心に同感したのかな。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

流されてみよう嫌われてもみよう
追憶のパツと光つてるところ
そこにあることがすべての木のベンチ
伐られた木誰もがキリン思うでしょう
ゆつくりと流れ曲がつてゆく大河

先月号の
お気に入り
さよならを刻んでみれば金太郎 芝岡かんえもん
もう自分を変えるしかないのかな。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

底なし沼の底を探している踵
脊椎にびっしり生えた返り点
ろっこんしょうじよう六根清浄力キノタネ
吠えたのは薄く開いた左の目
再起動するたび笑う股関節

「無人駅」は会員の自由な発表の場です。
未発表句5句をお寄せください。
また、お手元の最新号から、
好きな作品とそれに対するコメントも
お待ちしております。

深艘心理

閉経はとつくに過ぎたフライパン　ひとは
だからって空ばかり見てどうするの　守田啓子
欲望の蛇口はいまも半開き　吉見恵子

(会員雑詠集6月号より)

会員雑詠集「無人駅」に載っていたそれぞれ作者の違う句を三句勝手に繋ぎ合わせてみた。結果、五七五の一句だけではなかなか表現出来ない細やかな人間の心模様や女の業らしき物が程良く浮き上がってきたではないか。

例年のおかじょうき忘年句会などでは男女一組が、男と女の心の機微などをテーマに一方がまず披露、その返歌として片方が掛け合い漫才のように披露し、そんな掛け合いを計二〇句ほどまるで二人連歌（よくは知らないのだが）のようにやるといふ「掛け合い川柳」という遊びを余興でやっていた。

それぞれの人柄が川柳に滲み出ている、爆笑したり、なるほど…と妙に納得してみたりと、とても面白い余興であった。

今回はその三句三人バージョン。性も同性だけとして一人遊びしてみた結果である。これもまた楽しいお遊

びになったと自負している。
川柳はそこまで連作しなければ表現出来ない文藝ではない。五七五の中で敢えて言わないで言うという沈黙の文藝なのだ。邪道なんだよ。バカな奴だ。とお叱りをうけそうだけれど、なに、これはあくまでも座のお遊びとご理解願いたい。

コロナ禍の自粛で句会を開いてもなかなか集まらない現在、勝手に妄想の権化と化しておるのでして…ね。ふふふ。で、妄想の犠牲者となった御三方であるが、掲句の一句一句がそれぞれ見事な表現力と鋭い感性をお持ちの、当会会員としては比較のお若い方々。これからの川柳界を担う力量をお持ちだ。加害者の私が言うことではないのだが、どうぞこれからも宜しくご健吟に励んで頂きますよう心からお願ひ申し上げます。

傾斜に 立っている

7月3日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者 (12名)

むさし・土田雅子・熊谷冬鼓・渡邊こあき・守田啓子・小野五郎・葉閑女・まきこ・きさらぎ彼句吾・奈良一艘・夏草ふぶき・笹田隆志

▼投句者 (21名)

吉田吹喜・石橋芳山・柳本恵子・折戸洋・安藤なみ・宮井いずみ・吉松澄子・斎藤泰子・岩根彰子・岸井ふさゑ・旅男・米山明日歌・田中薫・須藤しんのすけ・芝岡かんえもん・まみどり・ひとは・村井規子・村上あつこ・坂本清乃・鳴海賢治

おかじょうき川柳社 7月例会

席題『恋』

青森県蓬田村

むさし選

【佳作】

トノサマガエルが好きになりそうだ

小野五郎

狼が尻尾を振ってついてくる

夏草ふぶき

ほめことばどつさり置いて去った人

まきこ

煮て焼いていい塩梅になった君

夏草ふぶき

虹が立つ恋占いは吉だろう

葉 閑女

待たされてばかりを恋と言えますか

熊谷冬鼓

露草一花恋しい人はおりませぬ

葉 閑女

席題『恋』

青森県青森市

土田雅子選

【佳作】

春ですね色恋沙汰の蠅叩き

笹田隆志

青春末期まだ囚われているハイネ

葉 閑女

きゅんを知りました涙も知りました

きさらぎ彼句吾

満月の恋は曲者夏の雪

笹田隆志

日の暮れの恋なら雨の恐れあり

守田啓子

群青の空を泳いで逢いにゆく

むさし

砂漠での恋には生理食塩水

小野五郎

恋つてねそうイカメンチの焦げたとこ

守田啓子

青春末期まだ囚われているハイネ

葉 閑女

まなぎしにからめとられてからさくら

きさらぎ彼句吾

【秀逸】

ジュテームと鯉がわたしに言うのです

奈良一艘

マスクングテープで恋にしてみよう

渡邊こあき

傷だらけの時間あなたと笑い合う

まきこ

【特選】

おろかになってゆく花になってゆく

きさらぎ彼句吾

『恋してる人ってみんな「おろか」なんだね。』

向日葵のふてぶてしさにちよいと恋

夏草ふぶき

流し素麺的恋愛を御存じか

むさし

まなぎしにからめとられてからさくら

きさらぎ彼句吾

【秀逸】

狼が尻尾を振ってついてくる

夏草ふぶき

待たされてばかりを恋と言えますか

熊谷冬鼓

おろかになってゆく花になってゆく

きさらぎ彼句吾

【特選】

傷だらけの時間あなたと笑い合う

まきこ

『心を焦がした時を思い出させてくれました。』

宿題『野』

青森県青森市

小野 五郎選

【佳作】

野原しんのすけならウチにもいます
 ポピー咲く野合のようにTOKYO五輪
 立ち入り禁止だれかものという野原
 真昼野のベッドの軋み夏めきぬ
 大の字で見てる双子座流星群
 野放しにしていた明日が攻めてくる
 目の奥へぎゅぎゅつと詰めていく夏野
 野バラのトゲが無数に刺さる賞罰欄
 目的地周辺デスとたんぽぽ野
 原っぱになれずワクチン打っている
 バカヤロウと叫ぶ萎びた生野菜
 美談並べて 枯れ野になつちやうぞ
 野戦病院へ助っ人に来る四分音符
 さんざんに人を泣かしてゆく枯野
 アマゾンをクリック安曇野が届く

吉田吹喜
 葉 閑女
 吉田吹喜
 土田雅子
 須藤しんのすけ
 渡邊こあき
 む さ し
 む さ し
 斎藤泰子
 守田啓子
 ま き こ
 熊谷冬鼓
 安藤なみ
 岸井ふさゑ
 吉松澄子

身体から湧いて出てくる荒れ野原

野アザミのままでいいのに活けられてしまう

ジビエ食べる人ね管楽器な人ね

花野なら体育館へ引越した

野ざらしの下唇からふと口臭

【五客】

野良猫の匂いで帰る金曜日

東京ドームふたつくらいの夏野かな

泣いてると母が野原を連れて来る

こつそりと手をつなぐから野火になる

獐猛な野分けになつていく妻よ

【人位】

枯れ野なら私をだいてくれるかも

【地位】

野辺送りますか流しソーメンにしますか

【天位】

「重要なお知らせ」来るまで野の虫

『選りすぐった語句を効果的に使っている。そして、鮮烈な表現となった。』

夏草ふぶき

まみどり

宮井いずみ

安藤なみ

奈良一艘

斎藤泰子

折戸 洋

夏草ふぶき

まみどり

芝岡かんえもん

米山明日歌

土田雅子

奈良一艘

宿題『のぼる』

青森県弘前市

奈良 一艘選

【佳作】

上昇気流周回遅れでやってくる
 落ちつきのない雲を見る桜桃忌
 月に向かつて夜のまん中を登る
 足の甲これより上に参ります
 添い寝しようきみの朝陽が昇るまで
 受胎告知昇降口で言われても
 ああ君は上昇気流になったのか
 スリガラス越しに感情のたかぶり
 頂に向かって「おもしれえじゃねえか」
 坂のぼるカレライスはまだですか
 アダルトの後れ毛が舞う夏の山
 切れ者の貌して上り線ホーム
 上り詰めると貼られてしまう「不要」
 真夜中の豚はこつそり木に登る
 「あ」に戻れそうで豆の木に登る

熊谷冬鼓
 夏草ふぶき
 夏草ふぶき
 熊谷冬鼓
 きざらぎ彼句吾
 ひ と は
 ひ と は
 石橋芳山
 村井規子
 鳴海賢治
 小野五郎
 葉 閑女
 吉田吹喜
 岸井ふさゑ
 きざらぎ彼句吾

電気椅子天にものぼる気持です

のぼりたがる夕日のことを案じてる

タラップを昇るとガッバーナの香り

段梯子登る貸借対照表

逆さまにのぼると決めた月である

【五客】

ホスピスの窓を誘うなストロベリームーン

さよならと言う永遠のハイタッチ

ボルダリングですか島原の刀傷

日が昇る海を一枚持っている

目くじらがぶつかる 石の匂い立つ

【人位】

毛様体筋弛緩というのぼり方

【地位】

仏壇をよじのぼるから虫になる

【天位】

ゆるゆると春画の春をのぼる指

『その指は多分ひとさし指でしょう。』

岸井ふさゑ

守田啓子

渡邊こあき

岩根彰子

安藤なみ

岩根彰子

土田雅子

岩根彰子

斎藤泰子

旅 男

守田啓子

笹田隆志

米山明日歌

宿題『自由詠』

青森県青森市 夏草ふぶき選

【佳作】

わたくしのベサメムーチョな紙パンツ
 はみだして昔の影にもどれない
 路線価下落 只今句会披講中
 じゃんけんて勝って泥沼模索中
 傾いた身体と答え探してる
 一つのまにやらそこいらじゆうに立つ墓標
 石鹼ごしごし今日の右手の悪たくみ
 いい奴だった銀河跨いで逝つちやつた
 陽気に線状降水帯を蹴散らかす
 お散歩ですか生真面目な急ぎ足
 切り札へのへのもへじ書いてやる
 消毒液がしみこんでいる返事です
 足枷のかぼちやがチョットでかすぎた
 太ももがイメージ論を説いてくる
 早送りのように会うのが好きなんです

奈良一艘
 米山明日歌
 守田啓子
 まきこ
 熊谷冬鼓
 芝岡かんえもん
 まきこ
 むさし
 坂本清乃
 宮井いずみ
 村上あつこ
 渡邊こあき
 石橋芳山
 熊谷冬鼓
 吉松澄子

太陽が沈むあたりに埋めてくれ
 てふてふやオーラルセックス昼は蕎麦
 人生の夏の午後です雨を待つ
 山背吹くポテトサラダが煮崩れた
 つけ忘れしたことがある般若面

奈良一艘
 岩根彰子
 村井規子
 鳴海賢治
 まみどり

【五客】

泰平に嫉みは続くおろしがね
 野暮用だった夜の徘徊だった
 終電のブルーチーズの過発酵
 しゃぼんだまになる迄酔わせてどうするの
 ワガママは睡蓮お利口さんは薔薇

芝岡かんえもん
 守田啓子
 旅男
 きさらぎ彼句吾
 田中薫

【人位】

呼び捨てにされてラップを掛けられる
 ひとは

【地位】

大文字で語る小文字で睦み合う
 きさらぎ彼句吾

【天位】

俺という傾斜に立っている家族
 むさし

『信じてくれる家族のいる強さを感じた句。』

第26回 杉野十佐一賞 作品募集

課題/締切

「変」(2句詠) / 2021.9.30 ✕

選者

徳永政二 (滋賀県/「びわこ番傘川柳会」所属)
 なかはられいこ (岐阜県/「ねじまき句会」所属)
 樋口由紀子 (兵庫県/「晴」編集発行人)
 広瀬ちえみ (宮城県/「垂人」編集発行人)
 吉松澄子 (愛媛県/第25回杉野十佐一賞大賞受賞者)
 むさし (青森県/おかじょうき川柳社 代表)

投句料

1,000円 (発表誌をもって投句料領収したものとさせていただきます/締切日まで投句料が入金された場合のみ作品を受け付けます)

応募方法

※郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/tosaichi/contest/>へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。送信後、締め切り日までに下記口座に投句料1,000円をお振り込みください。

【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「第26回杉野十佐一賞」として、下記送信先までメール送信してください。

＜送信先アドレス(守田啓子宛)：moriko@okajoki.com＞
 送信後、下記口座に投句料1,000円をお振り込みください。

振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

発表

月刊おかじょうき 2022年1月号の誌上において発表。
 サイト掲載：2022年1月中旬

賞

上位入賞者に青森県特産品を贈呈。

諸権利について

基本的に著作権は作者に帰属しますが、出版権、雑誌掲載権など、作品を自由に利用できる権利は、おかじょうき川柳社に帰属します。

その他注意事項

※作品は応募者の自作で未発表のものに限ります。※応募された原稿に関するお問い合わせや、審査結果の問い合わせには応じられません。※個人情報については、許可なく他の目的で使用することはありません。

川柳吟行会「ぽ」

課題『樹』

川柳を習い始めて8年。日々、右脳左脳に鞭打ても、どうにも老いが優っているせいかな、思うような句が生まれ出ないジレンマに悩みながらも、先達の笑顔と優しい言葉に誘われて合評会に参加しています。参加するだけでも恥ずかしいのに、何と会の司会をせよとの命を押し、しどろもどろの結果とあいなりました。第26回「川柳吟行会ぽ」の一人吟行のお題は、『樹』、投句者19人、57句を6月16日7人で合評をしました。「樹」をめぐる詩心あふれる句に感動し、「樹」をモチーフとするさまざまなドラマに驚き、瞑目しながらの2時間半、司会者のミスを補ってあまりある楽しくもあり、勉強にもなった句会でした。(隆志)

キでしつかり支えてもらえそう。【隆志】腰痛に悩む身とすれば、ケヤキの硬さはいい

【8点】特×4
入り婿に来てくれはった月桂樹 岩根彰子

【いずみ】月桂樹は刈り込みに耐える木。そのようにフな子が婿に来てくれたら我が家は安泰だ。【しんのすけ】広義での磯野家におけるマスオさんのな、ほっこり感、ほんやり感、鼻につかない栄光感の取り合わせが絶妙。【文音】入り婿という詩になりにくい言葉と月桂樹の詩的な言葉が「くれはった」という関西弁でつながっているあったかい思いが素敵です。【啓子】「入り婿に来てくれはった」記念に植えた月桂樹が見事な大樹に。家族関係良好そうですね。

【6点】特×3
山ぼうしが咲いたよ笑っているか君 福田文音

【州花】誰かがこう思っていてくれたらうれしい。そして生きていてさえくれればと思う人多数。【柳本恵子】山ぼうしの白い花々が目に浮かびました。心地よい問いかけに、愛を感じました。【ふぶき】遠くにいる君なのか、

【1点】特×4・佳×3

六月の腰椎5番からケヤキ 守田啓子

【吉見恵子】六月の背骨に感心しました。しかも腰椎5番がケヤキとは。圧迫骨折でもしてケヤキとなったのでしょうか。ただただ面白かった。【彰子】六月と指定した事で体感を共有出来、樗の防風林としての立ち姿、又材は狂いが少ないと言われるので中々の体格、人柄を彷彿しました。【さち】腰椎「5はヘルニアになりやすい箇所ですね。畑仕事が始まり、田植えが終わって腰が痛い時期。ケヤキのようにどっしりと硬い腰椎が羨ましい。【冬鼓】腰椎にできたこのコリコリ堅いのは何だ？ケヤキか？古典落語の「頭山」を思った。テンポのいい一席が始まりそう。【文音】腰椎は切ない。5番からケヤキだったら堅くて磨けば光沢が生じ、くるいが少ないという。こんな医学の発達を祈る。【こあき】六月の腰椎はケヤ

もう会えない君なのか、走馬灯のように色んな事を山ぼうしを見ながら思うのでしょね。さらりと詠んでいいなあ。

【6点】特×2・佳×2
どこへいったんだらう樹海への切符 城後朱美

【規子】樹海と聞いて青木と浮かんだ。そこへ行く切符がなくなるといふのは、もう少し頑張れという事で、なくなつて正解。【こあき】探し物をしてばかりの毎日。切符がなくなつたのは樹海へは行かないほうがいいということ。【さち】確かに若いとき持っていた切符。探す気もないけど。【啓子】このお惚け感が痛快。

【5点】特×1・佳×3
千回を散らねばならぬ樹齢千年 吉田州花

【朱美】千回散ることの強さ・逞しさに脱帽！千回見たいのに見られないのが残念【さち】散ることの繰り返しが生きることなんですね。しんどい。【旅男】千回も衣替え、お疲れ様です。長生きも辛いと皆言ってます。【冬鼓】咲くのも散るのも「ねばならぬ」に作者の思いを感じた。

【4点】佳×4

マザーツリーに抱きついている課長補佐 小野五郎

【いずみ】 出世のために主流派にしがみついているのかよくわからないけど、なんか面白い。【こあき】 中間管理職は辛い。マザーツリーに癒されてください。【冬鼓】 森の母なる大樹からパワーをもらっている課長補佐。補佐が絶妙。【隆志】 中間管理職の悲哀をうまく表現しています

【3点】特×1・佳×1

ブナの森フィトンチッドの処方箋 旅 男

【隆志】 ブナの森を表現するのにフィトンチッドをもってきた感覚に惹かれました【夢香】 フィトンチッドという響きが好き。

【3点】佳×3

笑うこと泣くこと樹医の処方せん 宮井いずみ

【紫の園】 枯れかかっている樹、倒れそうな樹を立ち直す方法はそれぞれ異なり、樹医の「処方箋」は名言。特選に値するほど。【しんのすけ】 樹医ならではの特別な優しさが感じられる。【柳本恵子】 今の時代こんな処方

時代がかつて月も曇ってしまいました。勉強になりました。た。

樹の精に枯れた心が癒される 紫の園

【夢香】 コロナ禍の今、樹木の存在の大きさを感じます。近くの神社の樹々が語ってくれています。

この枝で良かったのかとみる我が子 吉見恵子

【紫の園】 子を育ててきた自身の親としての、振り返り感がグッとでている句。

【1点】佳×1

昇天後成長するの樹木葬 紫の園

優しさの葉を茂らせて母になる 夏草ふぶき

緑陰の樹となっていた葱刻み 吉見恵子

自転車をはたてかけ春楡の木陰 宮井いずみ

自力では立てず大樹は手を繋ぐ 渡邊こあき

せんが、人間にも必要ですね。

植えないで 思考回路にコナラの木 守田啓子

【吉見恵子】 思考回路にコナラの木を植えるという発想が面白い。ドングリの思考が芽生えるのかも。【いずみ】 思考回路にコナラを植えたら、薪みたいに燃えてシヨトとしてしまう。【彰子】 直感は大切、炭にされては叶いません。従いますわ。

シャッター街ハンカチツリーが揺れている 渡邊こあき

【州花】 風にゆれるハンカチツリーはおいでおいでとそよぐ。【五郎】 映画のワンシーンのような作り方。【ふぶき】 誰も歩いていないシャッター街の様子が目に浮かびます。

【2点】特×1

そんなにかっこつけるなよ樹木葬 城後朱美

【五郎】 全作品の中で飛びぬけて独創的。

沙羅双樹コロナの果ての月の位置 吉田州花

【旅男】 沙羅双樹の花の色。コロナは世界大戦ですね。

徹夜などできなくなった紅梅です 守田啓子

鉢植えの樹は青空が恋人で 村井規子

樹木葬トツキトオカで牡蠣になる 夏草ふぶき

耳朶に触れる若木と風のおしゃべり 柳本恵子

樹の下に老人ホームの合祀墓 滋野さち

木のうろに無人のボートが浮いている 小野五郎

店仕舞い退学夢の樹が折れた 村井規子

右脳から飛び立っていく月桂樹 夏草ふぶき

屋久杉の叫びを聞いたことがある 熊谷冬鼓

倒木がナメコの店を出している 小野五郎

黒塗りのベンツで向かう育樹祭 須藤しんのすけ

十和田たてがみ川柳会六月句会

【参加者】漆館ミノリ・木村奈生美・久保あざみ・佐藤まさあき・瀧尻善英・中村英三・福田芳記・村上昌子・高田幸柳
 【投句者】磯島雅男・城後朱美

■席題 『冷凍』

村上 昌子 選

【平抜き】

冷凍庫季節の匂を待機させ
 猛暑日はかき入れ時の冷凍庫
 四十年夫婦のきずな冷凍庫
 冷凍もいいがタタキは限るナマ
 プロポーズしつかり冷凍保存する
 参観日子の失態に凍りつき
 冷凍で覚えた主婦の生きる知恵
 かき氷食べても消えぬわだかまり
 今もなお凍ったままの友が有る

高田 幸柳
 佐藤まさあき
 中村 英三
 佐藤まさあき
 瀧尻 善英
 高田 幸柳
 木村奈生美
 木村奈生美
 久保あざみ

【秀逸】

冷凍をしたいアナタの若い頃
 南極の水地球の危機叫び

瀧尻 善英
 高田 幸柳

【特選】

冷凍庫いつの化石かドア閉める

久保あざみ

■席題 『冷凍』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

おすまして麦茶に氷夏出番
 冷凍庫いつの化石かドア閉める
 冷凍と言う名前にも持つ個性
 冷凍で覚えた主婦の生きる知恵
 岩のよう冷凍マグロ下ろされる
 ヒマラヤの冷凍人間紀元前
 参観日子の失態に凍りつき
 冷凍庫季節の匂を待機させ

漆館ミノリ
 久保あざみ
 木村奈生美
 木村奈生美
 佐藤まさあき
 中村 英三
 高田 幸柳
 高田 幸柳
 高田 幸柳

かき氷食べても消えぬわだかまり

木村奈生美

【秀逸】

受精卵母体に帰るまで冷凍
 南極の水地球の危機叫び

福田 芳記
 高田 幸柳

【特選】

胸にある氷溶かしてから逝こう

村上 昌子

■宿題 『歴史』

高田 幸柳 選

【平抜き】

菅首相歴史に学ばず舵を取る
 押し入れに家族の小さい歴史置き
 懸命に生きた自分史悔いは無い
 公園の片隅にある慰霊碑よ
 根が深い歴史教科の日本海
 縄文の風を感じて遺跡出る
 皺くちやの生命線に浮く歴史

福田 芳記
 中村 英三
 木村奈生美
 久保あざみ
 磯島 雅男
 佐藤まさあき
 磯島 雅男

自分史は信号無視のことばかり

瀧尻 善英

【特選】

世界史に残るだろうなwithコロナ
 人間を裁くと暴れ出す歴史

瀧尻 善英
 木村奈生美

■宿題 『恋愛』

木村奈生美 選

【平抜き】

鳥の声恋の季節をする散歩
 恋心テレビの中でよしとする
 バイバイと振る手に隠すこいごころ

村上 昌子
 久保あざみ
 中村 英三

□ 2021.10.31 第 37 回すずむし全国誌上川柳大会

【課題】『気』(2句詠で1口)(字結び・読込可)【選者】(15名共選)岡崎守(北海道)・千島鉄男(青森)・熊谷岳朗(岩手)・伊東マコ(山形)・鎌田京子(宮城)・浅利猪一郎(秋田)・横村華乱(福島)・刑部仙太(栃木)・島田駱舟(千葉)・安藤紀楽(東京)・荒川八州雄(愛知)・小島蘭幸(広島)・高畑俊正(愛媛)・平田朝子(熊本)・渡辺松風(秋田)【投句料】1,000円で一口(郵便為替又は現金)(何口でも可)*参加者全員に参加賞進呈【投句用紙】所定用紙、便箋用紙、原稿用紙。作品・住所・氏名(雅号)・本名・郵便番号・電話番号明記【賞】大賞1名・入賞句入りブロンズ像・すずむし誌6か月分・あきたこまち20キロ/準賞2名・入賞句入りブロンズ像・すずむし誌6か月分・あきたこまち10キロ/4位~10位・すずむし誌6か月分・あきたこまち5キロ/11位~20位・すずむし誌3か月分・あきたこまち3キロ/21位~50位すずむし誌3か月分【採点】前抜(150句)1点・10秀2点・三才3点【締切】令和3年10月31日(消印有効)【発表】令和3年「川柳すずむし」誌12月号(12月22日ころ)【投句及び問合せ先】〒018-1724 秋田県南秋田郡五城目町東磯ノ目1丁目7-11 湖東印刷所内 すずむし全国誌上大会係宛(電話)018-852-2430 Fax018-855-1055【主催】川柳すずむし吟社

ラブラブと言うほど怖いスキヤンダル 雨やどりほんの会話がきつかけに 恋愛を恋愛と書き恥を掻く 片思いキラキラ巡る万華鏡 つっぺんで愛を告白観覧車 思い切り振って来てへありがとう 孫達の恋話聞く日夢みて 告白へ愛の炎が堰を切る 傘ひとつ紫陽花の道二人行く	磯島 雅男 高田 幸柳 福田 芳記 磯島 雅男 佐藤まさあき 磯島 雅男 漆館ミノリ 瀧尻 善英 佐藤まさあき
【秀逸】 心臓の高鳴り恋の文字が跳ね 恋愛でないが連れ添い五十年	瀧尻 善英 佐藤まさあき
【特選】 夫逝きて恋愛ごっこは止めました	城後 朱美

■互選『令和』

- ①平成を跨ぐびつくり箱空いた 村上 昌子
- ②西暦は元号よりもわかりやすい 漆館ミノリ
- ③コロナ禍の令和を越えて射す光 木村奈生美
- ④コロナ禍を生きて令和の語りべに 高田 幸柳
- ⑤戦ない平成に続け令和の世 佐藤まさあき
- ⑥令和の五輪コロナウイルス五個並び 中村 英三
- ⑦忘れないこの木何の木亜星さん 久保あざみ
- ⑧令和からみれば昭和は遠く見え 瀧尻 善英

【十和田たてがみ川柳会八月句会案内】

【時】8月21日(土) 午前10時から 【所】十和田労働福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『わくわく』高田幸柳選/『輪』木村奈生美選 【互選】(一句詠)『ワイドショー』当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入) 【席題】一題(三句詠・共撰) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名 【投句先】〒034-0049 十和田市西二十二番町2-21 十和田労働福祉会館 高田幸柳あて

読賣新聞

川柳作品をお待ちしております。

■題「時事川柳」むさし選

時事川柳をひとり何句でも。郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記のうえ下記へ投句して下さい。

【投句先】メール：aomori@yomiuri.com 「よみうり文芸」時事川柳係
ハガキ：〒030-0801 青森市新町2-2-4 新町二丁目ビル6階
読賣新聞青森支局 「よみうり文芸」時事川柳係

【掲載】毎週火曜日 / 【賞】秀逸には図書カードを贈呈

■会費拝受【6月受付分】 ※太字は新会員

宮古中子・斎藤恵子 (以上青森市) / 斎藤早苗・須藤しんのすけ (以上弘前市) / 高田幸柳 (十和田市) / 三浦蒼鬼 (黒石市) / 工藤比呂美 (外ヶ浜町) / 郷田みや (愛媛県) / 宮井いずみ (大阪府) / 折戸洋 (神奈川県) / 越田清四郎 (東京都)

■おかげょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかげょうき川柳社

→会費:6,000円(1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

〒039-3502 青森市久栗坂浜田 87-2

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

終着駅 Sin

◆私の住んでいる外ヶ浜町では、人口が少ないせいもあって、ワクチン接種のスピードはそこそこ早い。64歳以下の接種希望者も8月末で終わってしまうそう。中には、東京から来て打っている人もいそう。いやはや、なんだかそれもルールとしてはOKなのだが、自分が感染していないと確信して動き回る結果が、今の東京の新規感染者数なのだろう。とはいえ、政府も緊急事態宣言ではもう効果がないことくらいわかっているのだろうか、新規感染者が何人くらいになったら、自粛の行動に変容するのかを試しているようにさを感じる。で、ここに来て、厚生労働省は新型コロナウイルスを感染症2類から5類への引き下げを検討しているようだ。そうなれば、保健所を通さなくても、そのまま病院へ駆け込め

るし、使えるベッドも10倍くらいに膨れ上がる。リークされたような記事の感じをみると、これまで新型コロナの治療を拒んできた医師会への観測気球にも見えるが、さて。そうなれば、政府も自治体も新規感染者数のデータが入手出来なくなり、1年半続いた毎日の新規感染者報道も出なくなるであろう。ちょっとずつではあるが、出口が見えるような状況になってきている◆そんなコロナ禍の間に、失くしたものが新たに得たものがあって、それがまた元に戻るもの、元に戻れないものもあって、この期間、日本は停滞したのか、進んだのか◆そんな中で行われたオリンピック。私は開催賛成、有観客賛成派だが、あの開会式と閉会式の30万円のチケットが当たらなくて良かったと安堵している(笑) ◆Sin

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階

【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時~14時半

【講師】おかげょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】1回 500円

□8/10(火)「絞る」□8/24(火)「栞」□9/14(火)「はらはら」

□9/28(火)「粒」□10/12(火)「凄い」□10/26(火)「金魚」

●投句先:〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3 むさし宛/TEL.0174-27-2008/E-mail:hmusashi@r66.7-dj.com

Blog screenshot with QR code and text: 「チャレンジ川柳! むさし流!」のブログはこちらから

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2021.08.11 「川柳吟行会 ぼ」8月句会

【投句締切】8月11日(第2水曜日)【題・投句数】「寺」3句【合評会】8月18日(第3水曜日)アウガ5階で14:30～【投句先】toko@okajoki.com
熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方なら会員以外でも参加可。

□ 2021.08.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(10月号分)

【締切】8月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】10/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>
【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2021.09.04 おかじょうき川柳社本社9月句会

【時】9月4日(土)午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】9月3日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『火』/『捨う』/『自由詠』選者は当日の参加者より選出【席題】1題3句詠・2人共選【川柳ラボ】互選句「破調で作った句」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>
【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com(守田啓子) ■投句、句会参加はおかじょうき川柳社会員のみとし、句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

□ 2021.09.08 「川柳吟行会 ぼ」9月句会

【投句締切】9月8日(第2水曜日)【題・投句数】「坂」3句【合評会】9月15日(第3水曜日)アウガ5階で14:30～【投句先】toko@okajoki.com
熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方なら会員以外でも参加可。

□ 2021.09.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(11月号分)

【締切】9月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】11/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>
【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

